

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397100062		
法人名	自然株式会社		
事業所名	グループホーム じねん		
所在地	田原市豊島町釜鑄67番地		
自己評価作成日	令和4年1月7日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2397100062-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光あふれる自然の中、こだわらない、とらわれない、ほどほどに、あるがままにを理念に掲げ日々利用者と共に楽しく、笑顔あふれるホームにすべく努力をしております。できること、できないことへの見極めをし、有する能力を最大限に生かせるよう支援をしています。また、日本の文化を大切に、四季折々の行事も取り入れています。食事つくりを生かし、皆でいただく食事は最高です。おかげで食事を残す方はおりません。よく食べよく活動する方々です。日常の生活の中で程よくリハビリも行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、1ユニットの少人数でもある利点も活かしながら、毎日の食事作りに利用者も割烹着を着て参加する等、利用者の日常生活が前向きなものになるような支援が行われている。感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難になっている状況の中でも、利用者が日常的にホームの外に出て散歩を行う機会をつくっており、ホームでの生活が単調にならないようになりながら、利用者の身体機能の維持にもつながっている。ホームの建物の1階にはデイサービスを併設しており、デイサービスについてもグループホームと同じような支援が行われていることで、デイサービスからグループホームに生活場所を移行した方についても、入居前から同じような生活環境と同じ職員による支援が継続されていることで、利用者の生活場所の移行による生活環境の変化を小さくする効果にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	その人らしさを尊重し、それぞれにあった声かけをしている。事務所入り口に理念の提示あり、理念を共有し実践につなげている。理念を理解し、少しでも近づけられるよう業務に取り組んでいる。理念の共有は一部の職員でできている。共有はできているが実践はできていない。会議や朝礼で理念を言ったりしている。新人職員にも伝えているが、実践できているかという点では十分ではない。	「無為自然」の考え方をホームの支援の基本に考えており、利用者一人ひとりがあるままの生活ができるような支援を目指す取り組みを継続している。また、職員で目標を考えながら、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナのため地域へのイベント参加はできていない。散歩で挨拶をかわしたり、防犯ベストを着て近所を歩くなど役割をもって交流している。散歩時のごみ拾い。買い物は人の少ない時間帯を見計らって出かけるようにしている。施設近くの広場にラベンダー、四葉のクローバーを植え、看板を立てたり、ごみ拾いをしている。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、ホームでは、利用者が日常的に近隣を散歩を行っており、近隣の方との挨拶を交わす等、現状で可能な交流が行われている。また、併設のデイサービスと連携した地域の方との交流も行われている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、ホームの隣りに確保した建物を活用する等、感染症の状況をみながら地域の方との交流につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じて発信している。主に相談員が対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	10月、12月行うことができ、報告等をした。現在困っていることや今後に向けた話し合いができた。外部の方々のご意見等参考にしている、	会議については、感染症の状況をみながら会議の再際の判断を行っており、令和3年10月から会議を再開する取り組みが行われている。会議の際には、利用者一人ひとりの活動状況等の報告が行われており、関係者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の方が運営推進が意義にえられることはない。個人で連絡を取ることはない。相談員が地域のケアマネや社協とのかかわりを持ち情報提供を受けている	市担当部署、広域連合、地域包括支援センターとの情報交換等については、併設のデイサービスを通じた取り組みが行われており、ホームの運営への反映につなげている。また、例年については、市内の他のグループホームとの交流の取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は全くない。新人職員にも伝えていいる。何か問題があっても、拘束にならない方法を考察し実行している。職員全員でケアに努めている。施錠は日中はしてない。夜間のみ施錠。身体拘束をしないケアをしている。出入りは自由にしてある。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施錠を行わない支援を継続しており、利用者の状況等に合わせてホームの外に出る等の支援が行われている。また、運営推進会議を通じた身体拘束に関する定期的な現状報告や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	個の尊重に努め虐待はない。勉強会はなかったが、虐待はない。防止に努めている。行為や入浴時に注意深く観察し、報告しあい共有している。常に利用者の体の状態観察に努めている。言葉使い等に関しても気になるときには注意しあう、ときに上司から「気を付けるように示唆がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会は少ない。必要時に対応をしている。教科書で学んだだけで十分理解はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い理解、納得を図っている。代表者及び相談員が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の希望は反映させているように感じる。代表者から直接聞くことしかわからない。家族が来所された時、支払いに来られた時近況報告をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議などで意見や提案を聴き反映させている。その都度話し合い反映させている。月に一度全体で話し合う機会があり、代表者へ意見をまとめて伝えている。機会は増えている。常にどうしようかと一緒に悩んで相談に乗ってもらえている。	毎月の職員会議が行われている他にも、職員間で日常的に情報交換の時間をつくっており、職員からの意見等を法人代表者が把握し、業務改善等につなげる取り組みが行われている。また、主な職員間で意見交換や役割分担を行う取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	とても細かくきにかけて見ていると感じる。一人一人の職員に対して体調や精神状態に配慮し対応してくれている。努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	進めている。力量をを把握し働きながらトレーニングをしている。希望があれば参加できると思うが参加している職員はいない。それぞれのペースに合わせて少しずつ成長できるように考えてくれていると思う。コロナで外で学ぶ機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>ケアマネなどとは時々あると思う。同業の交流は少ない。本年度はコロナのため交流等は少ない。グループホームの合同運動会は今年度は中止となっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	話をよく聞くようにしている。本人の口から訴えはなかなか聞くことはできないが、日常の会話の中で不穏にならないよう耳を傾け、会話するように努めている。様子を見ながら情報把握に努め不安なことなどをのぞけるようにしている。本人からの訴えがあれば解決できるよう努めている。思いを伝えられない利用者にたいしても気づいてあげれるよう察知している職員もいる。初期は特にきをつけて努めている。自分の思いを言える人ばかりではないため、毎日の生活の中で気づけるようにしたいと考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	どのようなことに困っているのか相談時に聞いているとても熱心に聞いていると思う。代表者が家族に接してこまめに連絡を取り合っている。家族と信頼関係はある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人をよく見て必要な支援を考え対応している。努めている。努めていると感じる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ほとんどの職員は築いていたり、そうしようと思っている。時々発言や言葉使いから上目線に感じたりすることもある。自分のことは自分でやってもらい、お互いに助け合って生活できるよいかかわったり、声掛けをしている。時間ややることに追われている、支えあう関係性ができている職員はほとんどおらず、動きに対しての声掛けが多い。共同生活、家族という視点で接している。料理など教えてもらうことが多い。人生の先輩として会話などにも気を付けて接している。心掛けている。努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に家族が面会に来られたり、不足物品を持参されたり、共に利用者を支えていく関係を築いている。関係を築けるよう日々努力している。外出、面会の機会を設けている。全利用者とは言えないと思う。努めている。コロナのため今は十分とは言えない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染対策の取れる範囲内で努めている。日中に家族と過ごされる方もいる。努めている。コロナのため外出がほとんどできていない。面会は玄関先でマスク着用で行っているのがかない。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、併設のデイサービスに入浴前からの関係の方との交流を継続する等、現状で可能な交流が行われている。また、家族との外出についても、身内の方の葬式に出席したり、自宅に戻る等、現状で可能な支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	話したり、声を掛け合ったり、協力して家事を行っている。一部の利用者ではあるが口喧嘩などが起こっているため、起こる前に職員が介入するように努めている。利用者同士が良好な関係が傷けれるように努めている。孤立しないよう努めている。状況により、席替え、声掛け、介入などし、支援に努めている。皆が楽しく過ごせる場を心掛けている。出勤、退社時に笑顔で声掛けに努めている。仲が良かったり、気の合う人同士が話したり、一緒に作業場面を作ったり、普段あまり会話のない人との組み合わせをして話せるよう工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相手から相談があれば対応はしている。しかし契約終了後の情報は少ない。相談に来られる人はほとんどない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が日々の暮らしの中で何を思っているのか散歩中などに聞いている。希望があれば上司に伝えている。利用者に呼びかけて、買い物に行きたい人や料理づくりで何を作りたいかを聞いて取り入れるよう努力している。ケアプランに沿って対応している。思いを理解していないところが多く、努力している。家族の希望も踏まえ検討している。できる限り取り入れているが、集団の中で不可能なこともあるのですべてではない。	1ユニットの職員体制の利点も活かしなが ら、職員間で利用者に関する意向等の把握 を行いながら、日常的に情報を共有する取り 組みが行われている。また、毎月の会議を通 じたカンファレンスを実施しており、利用者や 家族の意向等を検討し、日常の支援につな げる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常の会話の中で把握。基本情報やフェイスシートを利用して把握。家族や利用者本人から聞く。記録を読んで把握する。種々の資料から情報収集に努めている。職員間での情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人ケースに日々の記録を残し、全職員が現状把握できるよう努めている。日々変わる「できること」「できないこと」のアップダウンをとらえることが難しく、まだ自分は少しできていない。出勤時に資料に目を通し現状把握に努めている。常にできること、できないことを見極め、状態観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議や通常業務内で職員は情報を共有し、ケアに反映している。月1回モニタリングを会議の中で行っている、	介護計画の見直しについては、1年までに実施しているが、利用者の状態変化等に合わせた見直しの対応も行われている。また、「日課表」に利用者の介護計画の内容が記載されており、日常的に支援内容の確認や変化等のチェックを行い、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝礼、夕礼、ケース記録、連絡ノート等で記録し、情報共有に活かしている。記録に細かく記載し、様子がわかるよう伝わるよう心掛けている。見直しの検討に個別記録、気づき用紙、提案用紙など活用。日々の記録はのこしており、状態変化は報告しあっている、しかし確実に情報が伝わらないことも時にある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	DS活用。お泊りDS(朝食、夕食提供)DSを利用しながらGHになじんでいただく。受診は基本家族支援となっているが状況により、事業所職員が受診することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くのスーパー買い出しに出かけている。散歩の中にごみ拾いを行っている。コロナのため近隣のイベントは出かけていない。しかし時に伊良湖岬等にドライブを行っている。新鮮な野菜等を頂いたり、購入をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援はしている。家族の希望があれば訪問診療を受けている。コロナワクチン接種は当ホームにて医師が来てくれ接種している。定期受診は家族が行っている。	多くの利用者が協力医をかかりつけ医としているが、利用者の中には入居前からの医療機関をかかりつけ医としており、家族の支援で受診対応等が行われている。また、併設事業所と連携して看護師が勤務していることで、利用者の医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が常にいる体制をとっているため、情報共有はできている。支援している。看護師との相談、連携はできている。常に相談を助言を受けている。毎日状態変化の報告は行っている。本人の訴えあるときは何時でも診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院は特に積極的にお願いをしている。今は病院関係者も以前より理解してくるようになってきた。家族や医療サイドにまめに情報を収集、相談をかけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。家族との話し合いを行い、医療機関とのかかわりを検討している。入所時に重度化したときの希望はきき、かつ終末期になったときは再度家族や医師との話し合いを重ねている。家族の協力は不可欠である。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、ホームで最期を迎えた方もいる。協力医との連携も行いながら、ホームで支援可能な内容の確認を行い、家族への説明が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は全職員がOKではないが、急変時にすぐに駆け付けられる体制は取っている。定期的訓練はないが、その都度振り返りは行っている。対応できるか不安。まだ不十分。緊急時マニュアルはあるが---		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練は年2回実施。地域との協力体制はまだできていない。運営会議にて話している。小訓練はレクの中で行っている職員もいる。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設のデイサービスとの合同の訓練を実施しており、ホームの隣の建物への避難も想定している。また、備蓄品については利用者毎に確保しており、ホームの倉庫内に保管している。	ホームの建物の隣の建物をデイサービスとしての活用を始めたこともあり、利用者の新たな避難先にもつながっている。近隣の方との協力関係も含めて、非常災害に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	極力気にかけて対応はしているが、時に感情的になったりもする。そのときは一旦その場を離れ他職員に代わってもらい冷静になるよう努めている。対応できていない職員がいるときは声を掛け合い行っている。常に相手の立場に立って声をかけている。利用者のプライドを傷つけないよう言葉使いに配慮している。無理強いはいしない。	職員が利用者を尊重した対応を行うように日常的に注意喚起等の機会をつくりながら、利用者のへの言葉遣いや対応等、職員の意識向上につなげる取り組みが行われている。また、利用者の身だしなみやおしゃれの支援等、利用者の尊重にもつながる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	心掛けている。利用者を選択肢を与え、希望を聴けるようにしている、また、レクなど自発的に参加できるよう心掛けている。働きかけはしているが完全ではない。なるべく話をする時間を作り、レクの中や食事中、散歩時などで働きかけている(本人の思いを引き出すため)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	皆で合わせてやることが多いため、すべて個人のペースで行うことは難しい。ゆっくり、のんびり過ごしていただきたいが――。職員の都合で行うこともある。希望がその人にとってプラスになるのかマイナスになるのかを見極めて行うことが大事だが、何もかも吟味なしで実施することはケアの本質を離れると思う。どうしたら豊かな生活が送れるのかを考えて行っていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している。できる方できない方も見える。その方の能力に合わせ支援している。季節に見合った服を家族に依頼し季節ごとに交換している。美容院は家族に依頼している。家族では無理な方は職員が美容院支援をしている。基本は本人の自由ではあるが、気温や季節に配慮した支援を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員、利用者が協力して作っている。片付けも行っている。時には利用者とメニューを考えたり、食べたい希望食も取り入れるようにしている。支援している。昔ながらのメニューは利用者の方が味付けしたほうがおいしいこともある。食材の買い出しも利用者と一緒に行うが、コロナのため思うようにいかない。	毎日の食事作り際には、利用者も割烹着を着て参加する等、一人ひとりができることに参加しており、利用者中心での食事作りが行われている。季節等に合わせた食事の提供も行われている。利用者の身体状態に合わせた食事形態等については職員が行い、一人ひとりに合わせた食事の提供が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援できている。水分等は記録記載を行っている。1リットルを目安とし、職員間で共有している。食事量は職員とほぼ同じである。野菜中心でおかずは3品作ります。状態に合わせて刻みしよく、トロミ使用など工夫して提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを実施。義歯の消毒は夜間実施。能力に合わせて介入している。口腔ケア支援のきちんとできていない職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定時の声掛けに加え本人の様子も見て誘導を行っている。全利用者の排泄パターンを職員間で把握できるよう努めている。	独自の様式でもある「週間生活表」も活用しながら排泄に関する記録を残しており、日常的な職員間での情報交換も行いながら、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。紙おむつの活用やパッドの大きな等の検討も行い、トイレでの排泄を継続できるような支援が行われている。また、看護師による排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個に応じ工夫をしている。オリーブオイルを使用したり、個にあった服薬の選択。毎日散歩朝・昼・夕。時に入浴時に腹部マッサージをしたり、散歩後にトイレに座ってもらう。また、体操の時便秘予防体操など入れることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	希望のあるかたは危険のない範囲で合せるようにしている。全て利用者の希望通りに出来ているわけではない。しかし、清潔保持のためどうしても必要時はなどは希望を通せずに入ってもらふことあり。職員の都合もあるが無理強いはない。声掛けをしてはいただい。湯温は好みに合わせている。	ホームでは、毎日の入浴の準備が行われており、利用者が毎日の入浴ができるような支援が行われている。昼間に入浴する方が多いが、利用者の意向等にも合わせて夕方の時間にも入浴が可能である。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	季節に応じて毛布、タオルケットなど活用している。個々の状況に合わせておむつ、夜間パット等使用し睡眠を優先している。無理に早く寝ていただくことはせず、本人が眠くなった頃に寝ていただくように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理解はしていると思うが、副作用まではわからない場合もあるので都度必要時は調べている。勉強できていない。職員全員ではないが内服薬は把握している。一人一人の薬を把握し、症状の変化に気を付けている。内服ミスが起きないようにダブルチェックを実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	畑があり、利用者と種まきから収穫まで行い、調理して食べている。支援している。本人のできることを優先し支援している。おやつづくり、畑仕事、物作りなどそれぞれの活躍できる場面が作られるよう努めているが、まだ十分できていない利用者もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍動きがとれず戸外外出は激減した。本人が希望する場所に行けるのはごく少数。現在は多少復活している。買い物やドライブ、散歩等出かけられるようになってきた。受診の日にエステに行かれる利用者もいる。面会や家族との外出など思うように出かけることができない年でした。	感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難な状況が続いているが、ホームでは、利用者が日常的にホームの外に出る機会をつくっており、敷地内の花壇の手入れや近隣を散歩する機会がつくられている。また、感染症対策を行いながら、利用者の希望に合わせた外出支援も行われている。	例年は、様々な外出の取り組みが行われていたこともあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ホームでのお小遣い預かりはしている。少額のお金を所持している人も見える。イベントにでかけ個々人で好きなものを買う機会がコロナでなくなっている。スーパーでの買い物時は財布から必要なお金を払ってもらうことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの希望もないこともありできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫できている。大きな窓から季節を感じることができる。庭には季節ごとの花があり利用者が楽しんでいる。	ホームのリビングが建物の2階にあり、窓が大きいこともあることで採光に優れており、利用者が日中を明るい雰囲気過ごしている。ホームの敷地には花壇がつくられており、日常的に利用者が外に出る機会がつくられている。また、リビングに花等を飾る等、季節感にも配慮する取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳椅子で新聞を読んだり本棚の前で本を読んだりそれぞれがやりたいことができるようになってきている。食事以外は席を決めてはいない。居室は自由に入出入りできるがほとんどの方は日中は居室にいることを好まないようである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は自由に使用していただくことになっている。自宅で使用していた物品を持ち込んでいる方も見える。家族には使い慣れたものをお願いはするが質素な方が多い。	居室については、様々な家具類の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室内は畳を敷く等、和風の雰囲気がつくられており、利用者馴染みやすい生活環境がつくられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫はされている、居室とびらは色分けがしてある。また階段も色分けがされ危険を少なくする工夫がある。フローアから全体が見渡せるため安全の配慮がはしやすい。片付ける場所が固定してあるのでほしいものを取りに行ける利用者も多い。テーブルは丸型でどっしりしていて安全である。食器類にも配慮があり、ご飯茶碗の内側黒くしてある。		